



京都府立医科大学 WLB支援センター みやこ NEWSLETTER

2019.9
vol.14

「キャリア支援コンソーシアム“えん”」平成30年度講演会・パネルディスカッション

テーマ：みんなで取り組む働き方改革

日時：平成31年3月24日(日) 午後3時～

会場：京都府立医科大学 第一講義室（基礎医学学舎 1階）

プログラム：

総合司会：星野男女共同参画推進センター副センター長

1. 総会

オープニング挨拶：竹中学長

これまでの啓発事業を振り返って：矢部男女共同参画推進センター長

2. 講演会

「女性外科医の育成とワークシェア・ワークライフバランス」

座長：大辻 英吾（消化器外科学 教授）

講師：カ山 敏樹（自治医科大学 一般・消化器外科 教授、

自治医科大学さいたま医療センター 副センター長）

3. パネルディスカッション

「皆のために働き方改革！～イクメン・イクボスの立場から～」

司会：福井 道明（内分泌・代謝内科学 教授）

パネリスト カ山敏樹講演会講師

大谷 学（京都府 府民生活部長）

張 財源（済生会京都府病院皮膚科 医長）

日向 高裕（京都第二赤十字病院 看護師）

4. 情報交換会



「キャリア支援コンソーシアム“えん”」（詳細は4ページをご覧ください）の平成30年度講演会「みんなで取り組む働き方改革」を開催し、医療従事者を中心に学内外から40名余りが参加しました。

講演会『女性外科医の育成とワークシェア・ワークライフバランス』

カ山敏樹自治医科大学さいたま医療センター副センター長、自治医科大学一般・消化器外科教授に「女性外科医の育成とワークシェア・ワークライフバランス」と題して、ご講演いただきました。



・序論1 外科医の減少

外科医がどんどん減ってきています。1994年を1とすると、2016年には医者全体では1.38ぐらいに増えているのですが、外科は0.75と25%も減っています。高齢化も著しく、このままいくと2035年から40年ぐらいには国内で一般の外科の手術が受けられないという時代が来るかもしれない危機的状況です。また、地域の偏在も大きく人口100万人当たりの外科専攻医志望者数は全国平均が6.09人で、東京は12.85人、群馬は0.5人、京都は比較的多くて9人近くあったと思います。

・序論2 女性医師の増加

女性医師の割合は増えてきて、24年度で19.7%です。入学者数、国家試験合格者数とも、概ねここ数年は35%近くを占めています。

診療科別の男女比は、小児科、産婦人科、麻酔科、眼科、皮膚科は30%以上女性がいますが、外科は総数で7.1%ぐらいです。学会別でも日本外科学会の女性医師の比率は低く、また消化器外科の専門医を持っている女性は1.9%で他科の専門医と比べても非常に低いです。

ただ、外科における女性医師の占める割合は上昇しており、外科学会新規入会者に占める女性の割合はここ数年は20%を超えるようになってきました。男女ともに半数以上の外科医が、女性外科医が働きやすい環境整備が必要だと考えており、外科医減少を食い止めるために、女性外科医が仕事を継続できる環境を整えていきたいと考えています。

・自治医科大学さいたま医療センター 一般・消化器外科の紹介

自治医科大学さいたま医療センターは標榜診療科が20科、病床数628床、医師が研修医を含んで333人おり、院内保育所「あおぞら」と病児保育所「ひまわり」があります。初期研修医56名中女性は41%です。

当科は在籍者39名中女性が10名で、病床数は75床、手術件数が年間1,100～1,200件、緊急手術を約210件やっていますので、かなり忙しい外科です。平成23年度以降の入局者は女性だけですが、ワークライフバランスを主張し最後まで他科と迷いながら、最終的に外科を選んでくれました。

その中の平成17年卒の女性医師の話をしします。彼女の夫は外科医で単身赴任、これまで9年間は別居していました。第1子出産後、第2子出産までの5年間に消化器外科の専門医と内視鏡外科の技術認定医を取りました。消化器外科の専門医は7-8割が受かりますが、症例数450の手術、大会等に出る、論文も筆頭で3編、学会発表も3件という大変なボリュームをこなさないといけない、また内視鏡外科の技術認定医は、合格率が2-3割しかなくて、非常に狭き門です。

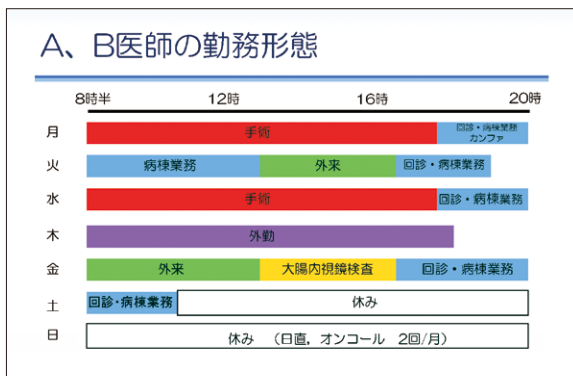
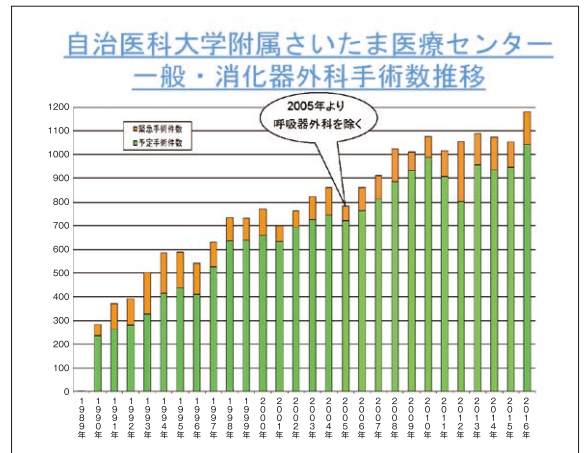
子育てと外科医と両立しようとする勤務制限が生じ、専門医の取得が難しくなります。当科ではカンファレンス免除、勤務は18時まで、当直・夜間の呼び出しは免除するが、日中の手術には参加し、専門医取得に必要な症例を積めるようにしました。その結果彼女は産後2年で消化器外科の専門医を取得し、その後内視鏡外科技術認定医取得を目指しました。認定医取得のための講習会に参加するために遠くに行けないので、院内で講習会を行い、本人もビデオやイメージトレーニングをして第2子妊娠中に認定医を取得することができました。

子供がいて労働制限のある外科医が増えると他の医師の負担は増えます。外科医が増えて労働環境が確保できれば、シフト制にしたり、男性も育児休暇を取得しやすい環境になるのではないのでしょうか。

・自治医科大学さいたま医療センター 一般・消化器外科の取り組み

当科の取り組みとして、主治医制からチーム制にして、長時間手術は交代制、土日でも交替で必ず休み、回診も数名で行うことにしました。子育て中はカンファレンス、当直などの免除はするが術者には当てる、そのかわり日中の雑用は積極的にやり他からの不満が減るようにしました。また、夜間は当直とオンコールだけで対応し、時短勤務の者は外来、化学療法、手術助手を行い、1にはならず0.3かもしれないが0.3の女性が3人4人でも働いてくれればゼロよりはるかに良いと思います。職場の意識改革、また夫や夫の上司など家族の意識改革も重要です。メディカルクラーク等多職種への役割分担も必要です。

ただ、大きな問題は十人十色で目指すものがそれぞれ異なり、全ての女性（男性）医師が同じ目標を持っているわけではありません。自分自身が働いている環境を把握して目標を設定し、自分の希望を表し相手の意見を聞き、最良の妥協点を模索することがダイバーシティ推進に必要なと思います。



・まとめ

女性外科医を増やさないと外科医は増えない、外科医が増えないと、ワークシェアが破綻してしまいます。女性外科医のキャリアパス、多様な働き方を提示しないと後進の女性が外科を選択してくれない。ワークライフバランスは各自の考えを尊重して、要望を丁寧に聞いて、再教育を含めてできるところは積極的に対応して、医局員、特に若い独身女性の不公平感をなだめながら、組織として意識改革をしていくのが大事。いい雰囲気医局にしようと努力しています。

まとめ

- 女性外科医を増やさないと外科医は増えない
- 外科医が増えないとワークシェアは破綻する
- 女性外科医のキャリアパス、多様な働き方を提示しないと後進女性は外科を選択しない
- ワークライフバランスは各自の考えを尊重
- 各自の要望を丁寧に聞く
- 再教育を含め要望に組織として積極的に対応
- 不公平感をなだめながら組織として意識改革



講演の詳細につきましては、HP「講演録」

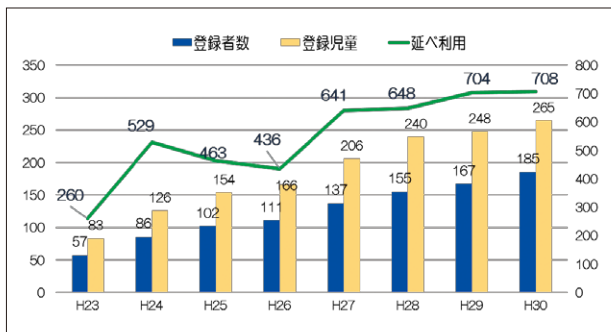
<https://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/about/katsudou.html> をご覧ください。

パネルディスカッション『皆のために働き方改革！～イクメン・イクボスの立場から～』については、ニュースレター次号でお伝えいたします。

「CC “えん” 平成30年度講演会」アンケートより

- 力山先生の努力と寛容の精神に脱帽します。
- ワークシェアを十分に行うことにより、体力勝負のような働き方が減り、子育て中の女性のみならず、多少体力に自信のない人（男女）が入りやすくなるのではないのでしょうか。多職種にふり分けられる仕事は、そこへ任せておけばいいのではないかと実感しました。
- 女性が増える → 外科が減る は社会問題になってしまっているのです、内科とはまた違う取り組みの必要性を感じました。トップの理解と支援の必要性、女性側がきちんと意見を伝える必要性など重要なことをたくさんおっしゃっていると感じます。

病児保育室「こがも」



令和元年7月1日(月)より、病児保育室の民間運営委託を開始いたしました。

- 受託会社
株式会社アイグラン（通常保育「くすのき」の運営委託先）
※ 業務委託に伴い、**メールアドレスが変更**になりました。

* 問い合わせ先：病児保育室「こがも」
E-mail: kyotofuritsuika-byojikogamo@aigran.co.jp
TEL: 075-251-5272
URL: <https://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/careroom/riyou.html>



学内保育所「くすのき」

学内保育所では、年度途中の入所を随時受け付けております。

- * 問い合わせ先：京都府立医科大学 企画・研究支援課
TEL: 075-251-5588
E-mail: kikaku01@koto.kpu-m.ac.jp



WLB支援セミナー&第147回研修医・学生のためのイブニングセミナー

WLB支援セミナー&研修医・学生のためのイブニングセミナーを開催し、研修医を中心に70名が参加しました。

テーマ：新専門医制度の実情

日時：令和元年6月20日(木) 午後6時～午後7時
会場：京都府立医科大学 臨床講義棟 北臨床講義室

司会：峠岡 理沙（皮膚科 講師）

1. WLB支援センター みやこの取り組み 伊東 恭子副センター長（分子病態病理学 教授）
2. 内科の新専門医制度の実情について
進行：牛込 恵美（糖尿病治療学講座 講師）
 - ① 消化器内科医の実情 京都きつ川病院勤務 竹内 健人（4年目専攻医）
 - ② 循環器内科医の実情 京丹後市立弥栄病院勤務 大内 成浩（4年目専攻医）
 - ③ 腎臓内科医の実情 京都府立医科大学附属病院勤務 飯森 未沙（4年目専攻医）
 - ④ 神経内科医の実情 京都中部総合医療センター勤務 横出 晃能（4年目専攻医）
3. 小児科の新専門医制度の実情について 秋岡 親司（小児科学 講師）
4. 麻酔科の新専門医制度の実情について 柴崎 雅志（麻酔科学 講師（学内））



■トリアス祭特別企画のご案内

テーマ：「自分の将来像を思い描こう パートⅡ」
講師：中島 華子（内分泌・代謝内科学 大学院生）
安田 美緒（看護部 母性看護専門看護師）

日時：11月2日(土) 10時30分～12時
場所：京都府立医科大学 看護学学舎 1階 第3講義室（広小路キャンパス）



「キャリア支援コンソーシアム “えん”」メンバー募集



- WLB支援センター みやこでは、平成29年4月に広報・啓発事業の企画・運営にご協力いただく「キャリア支援コンソーシアム “えん” (CCえん)」を立ち上げ、メンバーを学内外から広く募集しています。

メンバーになると

1. キャリア支援に関する最新の情報が得られます
2. 各種相談の窓口としてご利用いただけます
3. 講演会等への講師を紹介・派遣します



京都府立医科大学
WLB支援センター みやこ



「CCえん」世話人 (H31.4.1現在)

<学外>

竹村正子 (竹村内科院長), 武曾恵理 (京都華頂大学現代家政学部・食物栄養学科教授), 池田栄人 (京都第一赤十字病院院長), 小林裕 (京都第二赤十字病院院長), 糸井恵 (明治国際医療大学整形外科教授), 田村秀子 (田村秀子婦人科医院理事長), 田邊智子 (株式会社京都メディカルクラブ代表取締役社長), 平原直樹 (京都ぎつ川病院泌尿器科部長), 佐藤礼子 (厚生労働省大臣官房厚生科学課課長補佐) (卒業年次順)

<学内>

田口哲也 (内分泌・乳腺外科学教授), 高山浩一 (呼吸器内科学教授), 加藤則人 (皮膚科学教授), 福井道明 (内分泌・代謝内科学教授), 藤本早和子 (副院長兼看護部長), 藤原敦子 (泌尿器外科学講師), 金子美子 (呼吸器内科学助教), 峠岡理沙 (皮膚科学講師), 牛込恵美 (糖尿病治療学講座講師) (卒業年次順)

「キャリア支援コンソーシアム “えん”」令和元年度講演会・パネルディスカッション

テーマ: **医療人の働き方改革を共有しよう**

日 時: 令和2年3月8日(日) 午後3時~

会 場: 京都府立医科大学 第一講義室(基礎医学学舎 1階)

寄附のお願い

平成26年6月に本学男女共同参画推進センター寄附金の募集を開始し、平成31年3月末現在、延べ個人100名、5医学教室、および35法人から6,180,000円のご寄附をいただきました。誠にありがとうございました。

この寄附金で、搾乳室・女子休養室・おむつ替え台等の環境整備や、講演会・ニュースレター発行の広報啓発事業を実施させていただきました。また、今年度に若手研究者支援のための新たな事業も計画しております。

WLB支援センター みやこでは、今後とも長期展望を見据えた事業計画のもと、性別にかかわらず医師および研究者を支援していきたいと考えています。引き続き、皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

寄附のお申込み、詳細についてはHPをご覧ください。

<https://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/activity/donation.html>



当センターの名称を「ワークライフバランス支援センター みやこ」に変更いたしました。

平成31年4月に当センターの名称を「男女共同参画推進センター」から時代に即した本学らしい名称「ワークライフバランス支援センター みやこ」(WLB支援センター みやこ)に変更いたしました。

名称変更後も開設当初の基本理念を忘れることなく、子育てや介護に携わる時期のサポート体制のさらなる充実はもちろん、本学教職員全員で効率的な働き方改革に取り組んでまいりますので、引き続き、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

■ 「ワークライフバランスに係る相談窓口」を開設しています。ぜひ、ご活用ください。

■ 休養・授乳・搾乳等のための女子休養室がございますので、ご利用ください。

▶ 詳しくはHPをご覧ください。



ワークライフバランス支援センター みやこ

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
電話 (FAX) : 075-251-5165
Eメール : miyako@koto.kpu-m.ac.jp
URL : <http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel>